

知事と県民との意見交換会（山本地域振興局）議事要旨

- テーマ : 能代山本地域の子育てサポート ～つながりの場づくり～
- 日時 : 令和5年7月10日（月）10:00～12:00
- 場所 : 【視 察】三種町子育て交流施設「みっしゅ」
【意見交換】三種町山本地域拠点センター（山本公民館）

知事挨拶

毎年、県内各地でこのような会を開いている。

現場で色々な御苦勞をなさってる方にお話を聞きながら、県で施策や事業に取り入れる参考になることはないかと勉強している。

今日は子育てについてだが、少子化は秋田の一番の課題である。

今から30年間はどうしても少子化は止められない。日本の人口は減っており、結婚適齢期の男女の数が非常に少ない中、いかに子どもを大切に育てて、日本や地域の活力を託していくかということが大切である。そういった観点で、対策をしていくことが、今我々に求められている責任である。

そういう観点から、色々なお話を聞いて参考にしたい。

意見交換

（局長）

本日は、「能代山本地域の子育てサポート ～つながりの場づくり～」をテーマに意見交換をしていただく。

初めに、先ほど視察した「みっしゅ」をよく利用しているAさんに話を伺う。

Aさんから自己紹介と、自宅での子育ての様子などについてお聞かせいただきたい。

（A氏）

能代市在住で、1歳9か月の男の子を育てている。「みっしゅ」の開所当初より週2～3回利用している。

「みっしゅ」の開放的で温かい雰囲気が、私も子どもも気に入っている。平日は「みっしゅ」や能代・二ツ井の子育て支援センター「遊びのパレット」、子育て支援施設の「ポケット」などの遊び場を利用している。私自身が一日中家にいることが苦手であること、子どもの活動量が増えてきたこと、子どもも外に出てたくさんの人たちと触れ合っただけで欲しいとの願いから、毎日のようにセンターや施設を利用させていただいている。

その中でも「みっしゅ」は広々として、じっくり子どもが遊ぶことのできるコーナーがたくさんある。日中は母子2人である時間が長いため、孤独を感じやすいが、「みっしゅ」に行くと、「よく来てくれたね」「今日も元気だね」と出迎えてくれる。帰りは「また来てね、待ってるよ」「いっぱい遊べてよかったね」と、保育士はもちろん職員も見送ってくれ、とてもアットホームな施設である。

遊具が充実していることはもちろんだが、子どもの好奇心がとても旺盛で、目に映る遊具を求めて

色々なところで次々と遊びを展開していく。先生が側で見守って、様子を見て遊びの相手をしてくれる。日常の些細な出来事だけれども、保育士が子どもの成長に気づいて褒めてくれる、その一言が日常の子育ての励みになっている。

いつも子どものいいところを見つけて、褒めてくれて、共に成長を喜んで語ってくれる場では、私自身も心のリフレッシュができて、子どもの笑顔も沢山見られると思っている。

成長が喜ばしい一方、我が子に合った子育ては本当に手探りで、後で些細だと思えることでも、出くわした時は本当に気になったり、不安になったりする。

「それでいいんだよ」という一言で安心が変わったり、ストレスが解消されたりすると思っている。親が笑顔でいることで、子どもも笑顔が増えて機嫌が良くなると感じている。

(局長)

「みっしゅ」では木曜日に「おひさまひろば」というイベントが開催されていて、そちらにも参加されていると聞いたが、参加して感じたことがあればお話しいただきたい。

(A氏)

「みっしゅ」開所当初に行ったとき、たまたま木曜日に「おひさまひろば」でブルーベリー狩りがあると聞き、初めて参加した。私も子どももとても楽しくて、また次も利用したいと思った。最初は人数が少なかったけれど、能代市の方にも口コミで広がって、今ではとても利用者が増えて、楽しく参加している。

(局長)

「みっしゅ」を良く利用されているAさんのお話があったが、その他の利用者の声など聞いている範囲内で、Eさんから御紹介いただきたい。

(E氏)

「みっしゅ」は大型遊具が目立つ施設なので、町内外問わず、「遊具があるからちょっと行ってみようか」と来る方が大半である。

施設に着いて遊んだ後、2階に子育て支援センターがあると話をすると利用してくれる。子育て支援センターでは、保護者が子どもを遊ばせながら、保育士さんと雑談をする。「夜泣きするんだよね」「ミルク飲んでくれないんだよね」というような会話が、毎日のようにある。

その中で、子どもの体のこと、お母さんの健康面や不安に関する悩みが寄せられると、1階の子育て世代包括センターでの保健師との相談につながる。

6割は町外から利用される方である。町で実施している事業もあるが、利用する方、来場された方がどこ出身かというのはあまり関係ない。むしろ倍以上の方が町外から来ており、その方々と交流を広げることができている。特に「みっしゅ」の子育て支援は非常に範疇が広く、母子保健に関しては、産前産後の方や、未就園児のお子さんがいる方もいる。保育園に入ると保育園の保護者会、学校に入るとPTAがあるが、未就園児の保護者の方にはその枠組みがない。特に、妊娠出産の直前に結婚、町外から転入して、第一子を出産して家にいる方は、非常に孤立しやすくなる。そういった方々が、遊具があるから行ってみようとして来て、色々な悩みや不安を解消しつつ、リフレッシュを図りながら、ママ友と交流

している。

行政側では色々なところで「お気軽にお越しください」「お気軽に御相談ください」と言うが、ある程度の敷居の高さというのは感じられるんじゃないかと思う。

大型遊具があるから遊びに行ってみようという仕組みを作ることで、この相談へのハードルをいくらかでも下げることができたと思っている。

うちの施設は大々的に宣伝はしていないが、非常に多くの方々から来場いただいている。報道などで取り上げていただいて来る方が多いが、町外から来る方にどこで聞いたか声をかけると、ほとんどが「行ってみて良かった」という口コミである。保育士、保健師が来場した方に積極的に声かけをするし、色々な行政の施策とのつながりを築いていくなれば、職員と来場する方のつながりがあってこそ今後につながっていきける。

(知事)

私も県内の様々な子育て施設を見ているが、あれくらいの遊具はない。秋田市にも「みっしゅ」ほどの施設はない。大型遊具の集客力を生かして施設に来てもらい、来た方々を様々な機能でサポートする仕組みは素晴らしいと思う。

(局長)

続いて、現在子育てされているBさんとCさんにお話を伺う。

最初にBさんから自己紹介と普段御自宅でどのように子育てしているか、お話しいただきたい。

(B氏)

現在、小学校6年生の男の子、3歳の女の子、1歳の男の子の子育てをしている。

私は建設会社に勤めていて、短い期間だが、育児休暇を取らせてもらった。2番目の子どもが生まれたとき、妻がとても大変なのを見ていて、3番目のときはどうしても生まれた子どもにかかりっきりになるので、2番目の子どもの面倒を見るという意味でも休暇を取らせていただいた。

仕事をやってる中でもたくさんの人に迷惑をかけてしまったが、会社も快く取らせてくれてよかったと思っている。

(局長)

育児休暇を取得した時の会社や同僚の反応などお聞かせいただきたい。

(B氏)

私も子どもに向き合って育児に参加していきたいということをはっきり伝えたところ、皆さんも子育てが大変なのを分かってくださって、快く受け入れてくれた。

(局長)

3人目の子どもでの育児休暇取得ですが、子育てに向き合って自身が変わったことがあればお話しいただきたい。

(B氏)

2番目のときは子育てに関わっていなかった部分がたくさんあって、妻に任せっきりだったが、自分から率先してやるようになった。お風呂のときには顔に水をつけるとひどく嫌がることなど、この子にとって嫌なんだろうなというのを、反応を見て対応できるようになった点が一番変わったところである。

(局長)

御家庭のほかは主に保育所が中心と思われるが、他の家族やお父さんとのつながりについてお話しいただきたい。

(B氏)

保育園を変えたばかりで、まだ同級生のお父さんとのつながりはないが、これから夏祭りなど色々なイベントがあるので、積極的に参加してお父さんたちと関わって、色々な情報交換ができればと思っている。

(局長)

Cさんから自己紹介、子育ての現在の状況についてお話しいただきたい。

(C氏)

能代市在住で、現在小学校4年生の男の子、小学校2年生の男の子、4か月の男の子の子育てをしている。

現在一年間の育児休暇中で、一番下の子を家で見ているところである。

(局長)

3人目の子どもで初めて育児休暇を取得したということだが、休暇を取得して良かったと思われる点についてお話しいただきたい。

(C氏)

2人目のときはパートにすぐ復帰したが、3人目は自分の中で最後の子だと思っているので、ゆっくり見たくて育休をいただいている。育休を取れるか不安もあったが、職場で「取っていいよ」と言ってもらって、1年間取ることができ、感謝している。

育休を取っているからゆっくり子どもに関わることができる。お金の面でも支援いただいております、安心して子どもを育てていける状況である。

(局長)

子どもが4か月でまだあまり外で遊ばせることは少ないかと思うが、どのような方法で、子育てに関して他の方とつながっているのかお話しいただきたい。

(C氏)

そんなに出歩いているわけではないが、子育ての集まりには参加して、他のお母さんと話をしている。これから

色々な施設を利用したいと思っている。今日初めて「みっしゅ」に来たが、とても充実していると感じた。住んでいる能代市の子育て支援センターなどの利用を前向きに考えるきっかけにもなった。

(局長)

続いて、子育てをサポートする立場から、子育て支援センターで能代市の子育てサークルをサポートされているDさんにお話を伺うが、最初に、能代山本子育てサポートグループ「ちゅちゅ」について紹介する。

「ちゅちゅ」は、平成27年4月に発足して、現在13人で活動している。子育てに関するイベントの開催や、ブログやホームページ、LINEなどで子育てに役立つ情報を発信している。

子供服の古着、マタニティ用品、おもちゃをリユースする活動や、集まって子育ての悩みを話し合う「みんなの居場所」などの活動にも取り組んでいると聞いている。

子育てサークルの活動状況や、能代市の子育て支援センターの活動について、お聞かせいただきたい。

(D氏)

能代市の子育て支援センターは、能代市内に1か所、二ツ井地区に1か所ある。子育て支援センターは、0歳6か月未満児ひろば、6か月以上児ひろば、1歳以上児ひろば、おでかけひろばなどの「すくすくひろば」を開催している。

また、ママを対象に子育て支援講座を年19回ほど行っている。子育て支援センターの開放は月曜日から土曜日まで、8時30分から17時までである。

サークル活動は、昨年度で登録しているサークルは5つある。新型コロナウイルス感染症で活動が縮小したところが多いが、「ちゅちゅ」は意欲的に活動している。

「ちゅちゅ」の代表からも色々話を聞いており、こちらも十分サポートしていきたいと思う。このサポートグループ「ちゅちゅ」から別の子育てサポートグループができている。

現在、年に1回代表者の意見交換会や交流会を行っているが、なかなか会員数が増えないことが課題で、設立当時のメンバーの子どもが大きくなりメンバーが仕事に復帰して、活動に支障が出てくることが多いようである。

(知事)

前に子育てグループのリーダーに会ったことがある。自分の子どもが大きくなると、卒業して後継の方がいなくてグループが続かない、そして別のグループができる。一旦自分の子どもが大きくなると、グループを続けてお願いするのは無理である。いかにグループの中をつないでいくかが重要である。能代山本はどうか。

(D氏)

昨年度、初めて「すくすくひろば」やセンター開放に来た保護者の方に、サークルについて興味があるかと質問した。

参加してる方が5%、参加していないが関心がある方は36%、参加しないという方が40%ほどであった。サークルに関心のある保護者の方たちには、私たちが積極的に働きかけて、今あるサークルへの橋渡しをしている。例えば双子・三つ子のサークルなどもあるので、双子を育てるうえで相談したいこ

となど、その大変さを共有できたらいいのではないかと考えている。今後はサークルの内容や活動を私たちが把握しながら、そちらに橋渡ししていきたいと考えている。

ただ、リーダーシップを取れる方はなかなかいない。

子育てをされている方たちは自分の子どもを育てるだけでも大変なので、子育て支援センターでお手伝いしながら、サークルの運営を手助けしていけたらいいと考えている。

(知事)

7、8年前に全県のグループの交流会をやってもらいたいと要望があって、県で開催したが、次第に集まりが悪くなっていく。その中でも能代山本地域はグループの活動が活発である。

行政が「みっしゅ」のような施設を作ると機能が堅くなりがちである。子ども目線ではなく大人目線で「こうあるべき」となる。「みっしゅ」は子ども目線で、子どもが興味を示すと親が引っ張られていく。作る時は安全性や施設のあり方を考えるが、問題は子どもが楽しいかどうかで、今日はなるほどと思った。子どもが行くと親も行く、たくさん集まると交流も増える。多くの人が集まると利用率が上がるし知識が増える。保育士、保健師から専門的なアドバイスがたくさん出てくる。様々な事例から、保育士、保健師も逆に学ぶことができる。

行政が自分たちも学びながら、親や子どもにサービスを提供するという発想が理想的である。このような発想はどこから出てきたのか。

(E氏)

子育て交流施設は子育てのための施設だという考えは基本にあったが、具体的にどういった事業をするかは、ほぼゼロベースから考えた。

三種町の子育て交流施設は、何か新規の事業をやろうということではなく、既に実施している母子保健と子育て支援、この二つの制度の課題の解決策だった。人につなげるためにはどうしたらいいか、そのためには来てもらうところが最初だった。

先ほど知事がおっしゃったとおり、子どもが来たいと思わなければ当然保護者も来たいと思わない。何をしたら、何があったら子どもが来てくれるかというところで、大型遊具や公園の整備があるが、特に秋田県は雪も降るし、最近だと熱中症の危険もあるため、これからは屋内の遊び場が主流になるだろうと考えた。また、国で考えている母子保健と連動した仕組み、人が集まるところに子育て支援と母子保健を集約する、行政の取組に関して新しいものではなく既存のものにつなげるためには遊具、という結論になり「みっしゅ」の建設を進めた。

(局長)

後半は、子育てサポートされている方はサポートする中での課題、子育てされている方はサポートを受けての課題、希望、子育てをして必要と感じているサポートなどについてお話しください。

最初にAさんに伺う。お住まいの能代市の支援やつながり、三種町の「みっしゅ」を利用する支援、つながりで感じていることがあればお話ししたい。

(A氏)

アットホームな雰囲気の施設が、能代市にもあったらいいなと思う。また、子どもと一緒に昼ご飯

を食べられる場があるのも、私にとっては魅力の一つになっている。

1歳を過ぎてから午前中に寝ることがなくなって、午後1回の昼寝になった。遊び場から帰る車内で寝てしまって、そのままお昼ご飯を食べないで、2～3時間寝てしまうこともある。私だけかと思っていたが、他のママ友も、食べないで寝てしまうことがあると言っていた。これまで好き嫌いはなかったのに、1歳を過ぎてからは食べムラがあったり、好き嫌いが出るようになったり、食生活に敏感になっている。そういう母子たちにとって規則正しい生活リズムを整えられるというのはとてもありがたいことだと思っている。

「みっしゅ」に来ると食事を持ってきて畳の部屋で食べさせている。他のお母さんと一緒に食べることで悩みを共有できている。他のお子さんの食事の仕方を見る機会があってヒントになるし、情報交換できる場になっている。こんな場が増えたら嬉しいなと思う。

(知事)

この施設は開設してまだ1年だが、他の市町村に知られていないか。

(E氏)

新聞や報道を見て、色々な市町村から視察に来ている。

ただ、施設が先行してしまっている。子育て支援、母子保健の連携が取れるのか、単純に屋内の遊び場を整備するのか。色々な施設ができて地域全体で波及していけば、三種町だけで完結するものではない。県内市町村でも同じような施設が増えて、秋田県そのものの子育てに関する機運が高まれば、三種町に還元されるものだと思っている。

(局長)

Aさんから発言もあったが、他の利用者から要望事項があればお聞かせ願いたい。「みっしゅ」として今後このようなことに取り組んでいくなど考えがあれば御紹介いただきたい。

(E氏)

これまで22,670人と多くの方に利用いただいている。全ての方とお話できるわけではないが、職員、保健師、保育士が積極的に声掛けをしている。

色々相談を受けることで、子育てに関するニーズを把握する機能もあると思っている。

その中で、様々なニーズが寄せられる。実際「みっしゅ」が直接担う部分とは違っているが、仕事復帰など、働く環境についての相談が非常に多く寄せられる。

これに関しては、三種町子育て交流施設の事業ということだけではなく、三種町全体として、今後の少子高齢化対策に関する課題に反映できるのではないかと考えている。

子育てサークルの話があったが、能代市と三種町だと人口が全然違う。今回、意見交換会の実施に当たって調べたところ、三種町で現在、在宅で子育てをしている方は40人前後である。

その40人のほとんどが育休・産休期間の方であり、非常に限られた短い期間の育休が明けてしまうと職場に復帰する。その中で子育てのサークルを立ち上げて運営していくことができるだろうか。施設を運営する際もサークルを立ち上げられないかという意見はあったが、人口的にも非常に難しいため、子育て支援センターそのものがサークルの運営を担っている。町内の方はサークルに加入してなくて

も、オープンにしている施設に来るだけでサークルに入っているのと同等の効果が得られる。

毎週木曜日、おひさま広場のイベントをしているが、イベントがない日も常時オープンしている。待ち合わせて支援センターに来て、お茶を持って町へ出かけている人もいる。子育て世代の減少を踏まえて、子育て支援センターの役割を強化しながら、その運営をセンターで担っていくことが重要だと考えている。

実際に、施設もだが、子育て支援センターがあって良かったという声が非常に多いのが現状である。

(局長)

続いてBさんに伺う。お休みをいただいて子育てした際に感じたこと、現在、子どもと触れ合っている課題等はあるか。

(B氏)

一番上の小学校6年生の子はそれほど手もかからなくなってきたが、3歳、1歳の子は走り回っている。大きい怪我がないように注意して見ているが、どうしても目の届かないところがある。家の中や外の危険、夏なら熱中症などには注意して見ていければと感じている。

(局長)

子育てする中で、こんなサポート支援があればいいなと感じている点があれば伺いたい。

(B氏)

以前2番目の子が熱性けいれんになったが、その前に子育て支援センターから熱性けいれんの話聞いていて、その時の知識が役立ったことがある。

病院への搬送もすぐにできた。病気や怪我への対処方法が、支援サポートの中で学べる機会があれば参加したいと思っている。

私自身、日中は仕事でイベントに参加できないので、土日にイベントがあれば積極的に参加したいと思っている。

(局長)

Cさんに伺う。現在3月まで育児休暇中だが、子どもが大きくなって外で活動が増えてくると思うが、こんなサポートしている施設や、仲間と会ってみたいなど希望する点があれば伺いたい。

(C氏)

現在能代市に住んでいるが、冬になって雪が降ると、「みっしゅ」のように室内で遊べる場所も少ないため、行くところがなくなってしまうことがある。今日初めて「みっしゅ」に来たが、冬でも遊べるのがとても魅力的で、能代市にもそういうところが増えてくれればとてもありがたいと思った。

うちは上の子が小学校4年生と2年生で、下の子が4か月と年齢が離れている。

「みっしゅ」の体育館を見たときに、大きい子は大きな遊具で、小さい子は横の遊具で遊べるのはとてもありがたいと思った。走って遊びたい上の子たちに合わせると下の子が遊べない、下の子が落ち着いて遊べる場所だと上の子たちは遊べない。みんなで一緒に遊べる環境はなかなかないので、今度遊

びに来たいなと思った。こういう施設が近くにあれば嬉しい。

(局長)

子育て情報の発信などで、こんな情報があったらいいな、こんな感じで発信されればいいなと感じている点があったらお話を伺いたい。

(C氏)

子育ての情報は広報やSNSでもわかるが、子育てだけのサイトがあればわかりやすいのかなと感じている。

(局長)

能代市の子育てサポートグループの活動を支える立場から、今後必要となるであろうサポートについてDさんのお考えを伺いたい。

(D氏)

子育て情報は、主に子育て支援センターでの掲示や広報で発信している。また、メルマガや子育てエンジョイマップを作成し、市内の遊べる場所、児童公園、授乳、おむつ交換できる場所を掲載している。

能代市内には大きい子と小さい子が一緒に遊べる場所がなく、私たちの支援センターも「みっしゅ」の支援センターの半分くらいの広さしかない。

来場した保護者の中には、近くにおじいちゃんおばあちゃんがなくて一人で子育てをされていて、支援センターに来て「久しぶりに大人の人と話した」という方もいらっしゃる。職員は5人常駐しているので、一緒にお話したり、相談に的確に回答できるようにしたりしているところである。

私は4月まで保育所の所長をされていて、入所している子どもと、その保護者のサポートをしていたが、今は在宅で子育てしている方々のサポートを充実できるようにと思っている。

今後は子育てサポートやサークル企画・運営に力を入れて、サークルを作りたいと思う方がいたらできるだけお手伝いしていきたいと思う。

(局長)

サポートグループの方から色々な声があると思うが、課題や改善して欲しい要望があればお話しいたきたい。

(D氏)

子どもの成長と共に、どうしても活動がうまくいけなくなったり、子どもたちが大きくなって、スポーツや部活に保護者が動いてしまったりする。

その世代が変わっていくので、例えば今サークルに入りたいと言ってもサークルのお子さんがもう高校生になっているなど、サークルの中で話も違うことがある。世代のギャップもあって、なかなか増えない。

行ってみませんかと言ったところで、先輩のお母さんたちとの付き合いは違うなとなってくるので、そこも課題ではないかと思っている。

(局長)

終了時間の方が近くなってきた。これはお話しておきたいということがあれば発言をお願いします。

(知事)

今の母子手帳には、相談場所は書いていないのか。

(D氏)

母子手帳は、あくまでお子さんとお母さんの成長の記録になっている。

(知事)

母子手帳は必ず持っているから、これに相談の窓口が書いているシートがあればいいのでは。

(D氏)

別のチラシで、例えばいつマミークラスがあるとか、このクラスはセンターの「すくすくひろば」と一緒に行くなどの知らせは記載している。母子手帳自体は既製のものである。

(知事)

私は母子手帳に二次元コードを印刷し、スマートフォンで読み取ってすぐに出てくるようにすればいいと思う。これが本当の意味のIT化であるし、市町村毎に全部違う情報を見ることができる。

母子手帳に書いたらと言ったら、様式が決まっていると言われた。

(E氏)

自分は母子保健関係も担当していて、母子手帳の中に記載できればいいと思っていたが、既製のものを使っている関係上、中に小さく挟むことしかできなかった。そのため、秋田県内でおそらく半数の市町村が導入していると思うが、スマートフォンで母子保健の情報を管理するアプリを使っている。

これを三種町でも7月1日に導入した。アプリで市町村を登録すると、その市町村の医療機関や子育て情報が配信される。そちらを活用して情報発信を進めていきたいと考えている。

4月1日に広報や保育園で配布したところ、開始1週間で約40名に新規登録いただいた。「みっしゅ」のイベント情報をお知らせすることもできるし、熱中症、子どもを対象とした感染症流行などの母子保健に関する情報を出すことができる。アプリを今後広く普及活用していきたいと思っている。

(D氏)

能代市でも新聞や広報で子育て支援情報を発信しているが、若い世代は見ないことが多い。能代市でもアプリの導入を進めている。

(A氏)

私もアプリに登録した。次の予防接種がいつかよく忘れそうになって、自分のカレンダーに書いていたが、予防接種の案内が出るし、近くなったら案内が届く。「みっしゅ」のイベント情報も見られる。住所を変えると能代市でも利用できるのも、情報を1回登録するまでは時間がかかるが、私も活用してい

きたいと思う。

(B氏)

アプリの話聞いていて、とても活用しやすいと思った。そういう情報を男性目線からはなかなか得られないので、そういう情報を見られればとても助かる。

知事総括

今日三種町の「みっしゅ」を見て、今の時代に合った様々な情報伝達が必要であると感じた。何か施設を作っても、PRが足りないと言われる。今の時代に合った地域特性、都市部と農村部との違いを踏まえたPRが必要であり、今までの方法でやっても必ずしもうまくいかない。

今の時代にどのような切り口、またどのようなアプローチをするか。三種町はアプローチの部分がうまくできたと思う。アプローチは役所的な感覚だとなかなかうまくいかない。大変勉強になった。

お父さん・お母さんの情報交換もだが、行政の、県と市町村、市町村同士の情報交流について、県がリーダーシップをとっていく必要があると思った。

また、子育てについては今までほとんどがお母さんに向けた情報発信だった。今は男女で育児に参加することが目標なので、お父さん・お母さんへ平等に情報発信を行う必要がある。

様々な現場の皆さんの苦労話を聞いたので、これをまた持ち帰って、どういうふうに関の立場としていろんな意味でお手伝いできるか、十分に考えていきたいと思う。